

令和元年度 大田区区民協働推進会議（第3回）

日時：令和元年9月24日（火）

場所：本庁舎2階 201会議室

【次第】

- 1 令和2年度チャレンジ、チャレンジプラス助成審査員及び継続審査員について
- 2 令和元年度調査研究テーマについて
- 3 その他

【出席者】

委員：志村・櫻井・柳谷・小林・中島・石垣・小白木・中澤・中原・牛山

事務局：地域力推進部長・区民協働担当課長・区民協働担当2名・生涯学習担当5名

【会議録】

事務局	<p>定刻になりましたので、令和元年度 第3回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。</p> <p>本日は、酒井委員、小倉委員からご欠席の連絡をいただいております。また牛山副会長につきましては遅れる旨ご連絡いただいております。</p> <p>ただいま、委員12名のうち9名の方にご出席いただいております。過半数に達しておりますので、大田区区民協働推進会議設置要綱第6条に基づき、会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。</p> <p>開会にあたり、中島会長にご挨拶をお願いいたします。</p>
会長	《会長あいさつ》
事務局	ありがとうございました。ここからは中島会長に進行をお願いいたします。
会長	小泉部長から挨拶をお願いいたします。
	《部長あいさつ》
会長	<p>会議をはじめさせていただきます。</p> <p>お手元の会議次第に沿って進めたいと思いますが、時間の制約もございましたので20時30分までに会議を終了したいと考えております。</p> <p>ご協力をお願いいたします。</p> <p>最初に「地域力応援基金助成事業の審査員の選出」についてとなります。</p> <p>事務局より説明をお願いします。</p>
	《配布資料確認》
事務局	<p>助成事業の審査員の選出につきまして、ご説明いたします。</p> <p>本日は、これから募集を行う令和2年度のチャレンジ・チャレンジの新規の審査員、すでに交付が始まっております令和元年度のスタートとステップの継続の審査員のご決定をお願いいたします。</p> <p>令和2年度のチャレンジ・チャレンジの新規の審査員につきましては、今年度に引き続き、一般公募委員から2名、学識経験者としてご参画いただいております牛山副会長、区職員からの選出委員、社会福祉協議会からの選出の委員、事務局管理職も2名の7名程度とさせていただきます。</p> <p>一般公募委員の審査員につきましては、採択団体への経過観察もご協力いただければと考えております。</p> <p>また、公開プレゼンテーションに関しましては、より多くの区民へ事業を知ってもら</p>

う機会を活かすべく、来年2月9日に開催いたします NPO・区民活動フォーラム内で実施予定となっております。

なお、事務局案でご決定いただいた場合、一般公募委員の審査員についてですが、関係する団体で助成を検討されているなど審査員として関わられるかというご事情を伺う必要があることなどを踏まえ、どなたにご担当いただくかは、本会議終了後事務局と調整させていただくことでご了承いただければと思います。

次に、今年度採択団体への継続審査についてご説明いたします。
審査員につきましては、一般公募委員から2名、区職員からの選出の委員、社会福祉協議会から選出の委員、事務局管理職も1名の5名程度とさせていただきます。新規申請時に面接を行っていることを踏まえ、書類審査のみを実施する予定でございます。

また、今後、区職員のみで各採択団体に1回目の経過観察を実施し、その内容を踏まえて、2回目の経過観察を該当委員の方々にご参加いただく予定です。

スケジュールやどなたにご担当いただくかは、本会議終了後事務局と調整させていただくことでご了承いただければと思います。

なお、経過観察の際には、今年度から不補充となっている地域力連携協働支援員の職務の補完を目的に外部専門機関とのパートナーシップ契約を結び、協力を得ることとなっております。外部専門機関の活用につきましては、後ほどの議題である調査研究テーマの際に詳細をご説明いたします。

審査員の枠組みにつきましてご決定のほどよろしくお願いいたします。

《審査員選出》

会長

選出された委員の皆様、よろしく申し上げます。
事務局のほうで審査を担当する委員と調整し進めてください。

会長

次に、「令和元年度 調査研究テーマ」を議題といたします。
事務局より説明をお願いします。

《資料に沿って説明》

事務局

調査研究テーマにつきまして、ご説明いたします。

本日は、今後の議論の進め方について事務局よりご提案いたします。会議の開催回数や各分科会に所属されます委員のご決定をお願いいたします。

1 概要

(1) 分科会テーマ

各委員の皆様の専門性を活かし、有意義な議論をしていくことを目的に次の3つの分科会を設けることをご提案いたします。

- ① 福祉分野：個別支援を目的に、個人の生活課題にアプローチする団体
- ② 地域分野：地域支援を目的に、まちの機能課題にアプローチする団体
- ③ 学び分野 学びの観点から福祉・地域の分野を下支えし、学びの成果を地域社会に活かす団体

(2) 分科会委員と外部機関の活用

各委員の皆様におかれましては、分科会ごとに3名程度所属していただきますので、ご自身の専門分野を踏まえて、どこに所属されたいのかをご検討いただきたいと思います。会長、副会長におかれましては、特定の分科会に所属せず、オブザーバーとしてご参加をお願いいたします。

また、今後、事務局内に外部専門機関を招き、本調査のサポートを依頼いたします。先ほどご説明したように、今年度から不補充となっている地域力連携協働支援員の職務の補完を目的に外部専門機関とのパートナーシップ契約を結び、協力を得ることとなっ

ております。

コーディネーター養成講座など地域人材の育成を目的とした各種講座運営をはじめ、先ほどご説明した、助成金採択事業に関する検証・団体への助言、本推進会議の研究テーマに関する検証・助言など専門性が高い部分の団体へのサポートをしてもらう予定であります。

事務の軽減につながるだけでなく、事務局職員、区民活動支援施設蒲田(mics おおた)、区民活動支援施設大森(こらぼ大森)の職員なども専門機関の手法を学ぶことで、職員としてのスキルアップの機会とすることを目的としております。

(3) スケジュール

スケジュールにつきましては2つの案を提示します。

「案1」は、年内(12月中旬)に開催予定の本会議を1回分減らし、各団体への調査機関を十分確保し、各分科会での調査内容の整理を終えた明年1月の本会議で意見共有を図る案です。

「案2」は、予定通り年内に本会議を設け、各分科会の進捗状況を共有する案です。後ほど、どちらの案で会議を進めるかを決めていただきたいと思いますと考えております。

2 背景・経緯

(1) SDGsの要請～共通言語・接着剤としてのSDGs～

利害の異なるステークホルダー(利害関係者)ごとに価値観や優先事項が異なるため、大田区の地域課題や強みを活かすために「協働」をすることは容易ではありません。しかし、現在の複雑化する地域課題の解決には、利害の異なるステークホルダーが協力して、解決に挑む必要があります。そこで、世界共通の国際目標であるSDGsを「共通言語」として使用し、さらには、ともに協働をする「接着剤 ビジョン」としても有効となります。SDGsの提供する17のゴール(目標)のうち、「4. 質の高い教育をみんなに」、「17. パートナリシップで目標を達成しよう」の分野がSDGsの基盤を支えるものであり、この2つを推進する区民協働・生涯学習の役割は重要であると考えています。

(2) 区民活動団体・社会教育関係団体の区の実態

令和元年度の調査研究テーマ、「協働と学びの地域づくり～社会的包摂による持続可能な地域社会の実現に向けて～」の調査を進めるにあたっては、大田区の地域課題の特徴を把握する必要があります。団体の設立が多い分野は区民の関心が高く、地域課題・ニーズがあるとともに、その課題に取り組んでいる団体が多いことから大田区の強みとも言える部分があります。

また、SDGsは理念構築の考え方として、世界全体の「経済」・「社会」・「環境」の三側面を不可分のものとして調和させる統合的取組として作成されています。本推進会議においては、区の区民活動団体や社会教育関係団体の登録状況から、団体の関心・貢献度が高い「社会」とそれを支える「学び(生涯学習)」に着目したいと考えます。先ほど説明した福祉・地域・学びのテーマに分科会を設け、テーマごとの活動団体に共通する特徴(強み・課題など)をヒアリング調査などを通して整理・分析し、時代に即した「協働」と「生涯学習」の方向性を定めていきたいと考えております。

3 その他検討の視点

(1) 独自性の確立とローカライズ

SDGsは基本的に国レベルを単位として、グローバルスケールの課題解決のための枠組みとして企画、提案されたものであるため、各分科会においては、SDGsの枠組みを分野ごとにおける地域や活動団体レベルの課題・ニーズ・強みなどの特徴に適用するための翻訳作業(ローカライズ)が必要となります。また、大田区の特徴に留意した独自性のあるSDGsの独自化(ローカルアイデンティティの確立)も求められます。

	<p>(2) バックキャストイング (ゴールに基づくガバナンス) 2030年における大田区の「協働と学びの地域づくり」のあるべき姿をイメージするため、令和2年度の区民協働・生涯学習の予算編成方針を参考に紹介します。</p> <p>『区民一人ひとりが学びにより自らを豊かにするだけでなく、人と人、人と地域社会をつなぎ、学びの成果を地域社会に生かしていく「学びの循環」を生み出すとともに、地域の多様な活動主体との連携・協働により地域生活課題解決を総合的に充実・強化』</p> <p>(3) 学びの循環と連携・協働に向けた共通課題 地域における個別具体的な課題については各部局で事業計画が策定されておりますので、本推進会議では持続可能な地域社会の構築に向けた「学びの循環」と「連携・協働の推進」における共通課題を検討していただきたいです。</p>
課長	<p>補足させていただきます。区は公共性・公益性、団体は専門性を求められ、その特性から連携における課題もあります。</p> <p>そこで、世界共通言語として2030年をめざしたSDGsの取り組みを紹介しました。</p> <p>なぜ、福祉・地域・学びの3分野なのかと申しますと、子ども、高齢者、貧困などの個別的な課題をひとつずつ掘り下げるのは各事業部門が行っています。</p> <p>ここでいう課題を見つけていくことは、大きくくると個人の生活課題に個別に支援している区民活動団体と防災・環境など広く地域課題にアプローチしている団体の抱えている課題とでは異なる部分もあるのではないのかという観点であります。</p> <p>また、学びの分野について、活動に興味を持つ入り口の一つに生涯学習があるのではないか、人生100年時代を迎える中で、きっかけがあれば地域活動に参加する方も増えるのではないのか。生涯学習をきっかけに地域活動に参加する流れもあるのではないのかという観点で考えました。</p> <p>前回の会議で、分科会を設置して掘り下げていったほうが議論が深まるのではないかと意見がございましたので、福祉・地域・学びの3分野を設けさせていただきました。</p> <p>また、SDGsの「社会」の側面に注目した理由としまして、行きつくところ、地域活動は全て「社会」に落ち着くと考えているからです。</p> <p>介護ロボット、自然エネルギーの転換など、「経済」や「環境」も地域活動という観点から見ると広く「社会」の分野に含まれます。</p> <p>大きいくりの「社会」の中で、個人の生活課題に個別に支援に支援している団体と環境や経済、観光など広く地域課題を見て活動している団体を一つのくりとして「社会」として捉えてみようとする考え方です。</p> <p>国のNPO統計では、NPOの数は平成26年度から5万程度で推移している一方で、区民活動情報サイト(オーちゃんネット)には704団体が登録され、平成26年度から増加傾向にあります。団体にはどんな課題があるのか、どんなことが活動の成果か、我々も地域現場に出ながら実態を把握したい。調査の手法としてヒアリング調査などもあるかと思えます。今年度の調査研究テーマの実現に向けて、区民活動団体が、どうあるべきなのかをご議論を頂きたいと思っております。</p> <p>また、今までの区の事業のあり方、中間支援組織のあり方も再検討したいと思えます。会費など自主財源の確保・広報・人材の育成方法など、団体への支援の更なる充実が必要であるとも考え、他自治体の現場で中間支援組織として実践している専門機関のNPOサポートセンターを招いてアドバイスを頂きたいと考えております。</p>
会長	<p>ただいまの説明内容について、質問・意見等がございましたらご発言願います。</p>
志村委員	<p>この中でいえば福祉分野の障がいについて、私には地域の方に障がいについて理解を進めていただきたいという野望があります。この間も「さぼーとびあ」を使って講演を行ったり、いろいろな活動をしています。どこまでが障がいのグレーゾーンは果てしなく広がっています。障がいに関わらず「だれにでも使える」をベースとしているこの考え方をどう説明していけるのかが肝であると考えています。配布資料に「地域におけ</p>

	<p>る個別具体的な課題については各部局で事業計画が策定されている。」とありますが、区民協働が、縦割りではなく、横ぐしをさせるのでしょうか。共通理解が進めばいいなと思います。</p>
係長 (生涯学習担当)	<p>国民が学び、地域を作るという社会教育法にのっとして、区民協働・生涯学習担当は、その横ぐしをさせる、それを期待されている部局であると思います。</p>
櫻井委員	<p>書いてあることはもったもなことです。これを実現するのに行政の方である程度、柱を作ってもらわないとなかなか難しいと思う。どう実現していったらいいのか、私は何ができるのか、一区民として考えてしまいます。なかなか区民がこれを実現していくのは難しいのではないかと思います。</p>
課長	<p>行政への期待として受け取りました。消費税の増税の議論では、我が国は他の欧米諸国と比べ「中福祉・中負担」を選択しています。このような中で、行政が細部にまで手を伸ばすのは物理的に困難であり、かつ本質的な満足を得るには課題があります。その中で課題解決について、委託・指定管理というような民間活用というセンスとは異なる多様な主体が協働し、一緒に豊かな街を作るにはどうしたらいいのか、といのをいかに考えられるかが重要と思います。その前提に立って、それぞれができる最善はなにかをぜひ考えていければと思います。</p> <p>団体の皆さんが、主体的にできること、行政として支えるべきことや余分なところがあればぜひご意見いただきたいと思います。</p>
柳谷委員	<p>私を含め、私の周りではかなり多くの方々が多数の団体にかかわっています。こうやって活動分野を分けるのが普通になっていますが、分野も様々な分野にわたっています。</p> <p>UDの方でも推進委員にもかかわっているが、そちらでも関心のない方々というのは、自分に関係がある事柄でも関心がなく目を向けてくれないということが問題になっています。自分に全然関係ないのであれば、関心がないのも分かるが、自分に関係があるけれども耳を傾けてくださらない方々が多くいます。福祉の世界であれば、みなさん助け合って、一人では生きていけないと言っているけれど、実際には関心がなく孤立してしまうことが多いです。</p> <p>地域活動についても、自分の会社は福祉・介護の会社だから福祉フェスなどに声をかけるが、周りに一緒に行く人はいないです。関心を持たないような人たちが関心を持つにはどうしたらいいのだろうかというのは、私自身が抱える悩みでもあり、多くの人が抱える悩みなのではないでしょうか。メンバーを増やしたい団体については関心を持ってもらえないなど悲しい社会のあり方に通じます。せっかくやるのであれば、いろんな人の耳に届いて、明日は我が身でやっておいた方がいいという仕組みづくりになればと思います。</p>
課長	<p>団体において、人を増やしていく・勧誘するきっかけというのはどういうタイミングですか。</p>
柳谷委員	<p>成功事例でいうと、コミュニケーションツールの介護ロボットについて紹介されたので、私の利用者さんに実際にやってみようと思ってもらい、泣いて喜んでもらえました。その後、そのロボットを私が持っている「ふれあいフェスタ」のブースに展示してみませんかと誘ったら、それは了承いただきました。実際に活用して頂いて、その場面に連れ出すことができました。そういう風にして、人が興味を持つところにヒットするところを見つければ、成功するのではないでしょうか。何にヒットするのは人それぞれ違い、それを見つげ出すのが私たちつなぎ役の役割なのではないかと思います。</p>

課長	<p>おそらくそれが答えですね。こういう成功事例をいくつか頂けたら、ヒントになると思います。</p>
小林委員	<p>私は「大田助っ人」という団体で全世代に対して日常的な悩み事を解決しようとして、8年くらいになります。今は子ども領域をメインに動いているのですが、この資料の「学びの分野」などを見ても、ほとんどは比較的年配の方々について述べられているように見えます。PTA 会長活動等をしていても、自治会町会・青少対に顔を出していても、みんな「子どものため」といいつつも、結局そんなに子どもを見ていないように感じます。この資料の数字を見ても、拾えているのはご年配の方々ではないでしょうか。子どもや働いている親などの若い世代の方々の実態をもっととらえて、その方たちに色々なところに参加してもらえらる形をつくるにはどうしたらいいのかが肝ではないでしょうか。</p>
係長 (生涯学習担当)	<p>数字的な部分では、どうしても高齢者層になっています。ただし、その人たちが地域にある課題をどうやって拾っていくのかを繋げないと、子どもや弱者のためであるということにはつながらないと思います。学びから次世代育成を生み出していくということが全世代に関わるということをお忘れはいけません。</p>
中原委員	<p>地域・福祉分野を見てみると、ある意味でいうと社会福祉協議会の分野そのものではないかと思いました。今までの福祉という概念が変わってきて、もう少し広く生活全体になってきて誰もそこに入るような時代、あなたの問題は私の問題であるという包括的な考え方になっているのではないかと思いました。そうした中で、個別的な支援・地域支援を区民協働で取り上げられることは非常に良いことだと思います。</p> <p>また、このスケジュールを見ると調査が重要だと思います。NPO サポートセンターが中心になって行うようですが、どんな考えをもっている団体か、後でいいので教えていただけるとありがたいと思います。</p>
小白木委員	<p>柳谷委員がおっしゃったように、様々な分野にまたがって活躍している方が多いと思います。私が所属している NPO 交流会で、SDG s について講演会を行ったら、もうすでに行っていることがある団体もあり、SDG s をものすごく難しいことだと捉え抵抗感がある団体もありました。</p> <p>また、なにかを行うのも自分たちの団体だけでは限界があるので、連携協働と言っているが、なかなかマッチングが難しい状況も把握しています。地域にいる区民・団体が生涯学習でいろいろなことを学んで、福祉分野の個別支援の団体だけでなく、地域分野の団体も含めて見守っていくようなコミュニティづくりを行っていくのがいいのではないかと思えました。</p>
中澤委員	<p>地域分野に関しましては、防災・環境など私が係わっている部分で言いますと、交通アクセスの悪い臨海部で、年に1度でも清掃活動を行っているが関心がないのか、なかなか積極的になってくれません。私の会社は城南島にあるが、城南島の中でしか事業を営んでいない。担い手が少なく、なかなか声をかけても動いてくれないのが悩みです。生涯学習は、現役世代はなかなか時間がなくて忙しいと称してなかなか行っていないです。実際社内でも、セミナーを有償で受けさせるといっても、なかなか受講しません。</p> <p>また、働き方改革で有給5日間取れたのかといっても、上期が終わってもまだ取れていないのが多いのが現実かと思えます。余裕がなく、人手不足なのが実情で現役で働く若い世代はなかなかそういった余裕がないのが現実かと思えます。</p>
石垣委員	<p>青少年委員を30年ほどやってきて、今の子どもたちは、本当にいい子になっています。親御さんも手をかけております。手をかけていない子は、様々な理由があるでしょうが行政に預けている方が多いです。このように、大事に育てている人もいる一方で、子どもに目を向けていないなどの二面性があることが多いです。</p>

<p>会長</p>	<p>また、法務省の人権相談を行っているのですが、たくさんの電話相談を受けます。PTAや病院の関係者からも電話があり、地域全体で傾聴してくれる人を求めていると感じます。今回の分科会での調査研究についても、他の委員の皆様と意見交換を重ねながら、勉強させていただき、参加をさせてもらいたいと思っています。</p> <p>一通り伺いまして、こういうことから感じる場合があります。方針を示して課題を解決するという宿題として受け取りました。一番大変なのは、どう実践に移すのかということ、しゃべること書くことは簡単ですが、実践につなげていくこと、協働相手をきちっと見つけてより効果のあるつなぎ方をしていくことが大切です。みなさんのこれまでの経験を生かした分科会になっていただければと思っています。みなさまいかがでしょうか。</p>
<p>櫻井委員</p>	<p>人手不足、不足働き方で苦しんでいる方が多い印象を受けます。その中で、メンタルヘルスで苦しんでいる方は、解決ではなく、とにかく育児のことなど自分が今大変なことを聞いてほしいという方が多くなっているように感じます。その中で、自分たちがつなぎ役として活躍する必要があると思います。</p>
<p>課長</p>	<p>少し前までは、リタイア後のシニアや、ご婦人に支えられていた地域活動が多かったと思いますが、働き方改革や、生涯現役などの流れもあり、より地域活動に力点を置く人が少なくなってきたと感じます。今まで以上に連携協働相手を見つけて課題を解決していくということが重要になると思います。成功事例が今後のヒントになると思うので、活発に議論いただければと大変助かります。</p>
<p>会長</p>	<p>これまでは、連携協働といっても最後はつなげていくということができていませんでした。仲介の労をとらなければ、絶対につながらないと思っています。行政でまとめてつなぐための仕組みづくりを完成させなければ、効果は上がりません。目標をそこに当てていただきたいと思っています。</p> <p>《副会長入室》</p>
<p>副会長</p>	<p>遅れて申し訳ございません。改めて確認しますが、今年の調査研究のテーマの趣旨の説明をお願いします。</p>
<p>課長</p>	<p>「学びと協働の地域づくり」に向けて今後どうあるべきか。地域でつながりを作る仕組みをどう作るべきか、団体は協働相手をどう見つけて課題を解決していくかななどを議論いただいております。そして入り口としての学びをどういう仕掛けをしていくべきか。こうした議論に対して専門機関として、NPO サポートセンターのご助力を頂いて調査研究を深めていこうという趣旨です。</p>
<p>副会長</p>	<p>みなさまが今後の調査研究の方法に理解をいただいているのであれば異論はございません。</p>
<p>志村委員</p>	<p>福祉分野といっても他の全部の分野に関わりがあることですね。家族の変化や格差、現状としての意識の低さということの現状把握をしていかざるをえないだろうと思います。若い人たちが学び合うやり方とか、地域を理解してもらうための現状把握なども必要なのではないのでしょうか。</p>
<p>会長</p>	<p>やはり理解してもらうことがとても大事です。私どもの地域では、支援学校でも学校公開を行っていて、当初は父兄から反発もあったが、見て理解することが大事です。今日も支援学校で道徳を行っていました。地域でも理解しあうことが大切でそういう機会を増やしていくということでもいいですね。</p>

中原委員	お互いに理解しあい、学び、そして実際に参加していくという誰しも分かるような構造が説明できたら、もっと参加者も増えると思います。学びというのは人を豊かにするし、学びがあれば参加もスムーズになります。
志村委員	若手でもいいから、いろいろな部局の方に入っていて、ここでこういうことを考えているということを持ち帰っていただきたいです。
事務局	明日、2年目の新人職員に研修を行います。
会長	質問・意見等も出尽くしたと思いますので時間の関係上そろそろ分科会の所属員を決めたいと思います。立候補をお願いします。
	《分科会・分科会参加委員の決定》
	① 福祉分野：志村委員、柳谷委員、小林委員
	② 地域分野：櫻井委員、石垣委員、中澤委員
	③ 学び分野：小白木委員、中原委員
事務局	本日、欠席された委員のみなさまにつきましては、後日、事務局からご要望をお聞きした上で、各分科会に所属をしていただきます。 また、今後のスケジュールにつきまして2案を設けましたが、どちらがよろしいでしょうか。
中原委員	事務局としてはどちらが好ましいでしょうか。
課長	きめ細かいほうが良いとも考えますが、会議の日程が増えることで委員のご負担を増えることも考慮しますと「案1」の方がよいとも考えます。
会長	「案1」で進めてみて、状況に応じて「案2」のように本会議の開催の有無を決定するのはいかがでしょうか。
	《委員一同承認》
事務局	今後の会議のスケジュールとして「案1」を採用させていただきます。
会長	他に特に質問等ないようでしたら、予定しておりました議題は以上でございます。 事務局から報告はありますか。
課長	先程ご質問のありましたNPOサポートセンターはどんなところということですが、中央区の協働ステーション・中間支援組織を運営しております。ご担当の方は、大田区池上ご出身ということですが。
会長	次回の推進会議の日程について、事務局からお願いします。
	《令和元年度 第1回分科会は、11月5日（火）に開催》
	《令和元年度 第4回は、令和2年2月下旬に開催予定》
会長	会議を終了させていただきます。皆様、本日はありがとうございました。
	《閉会》